

(9) 参加校による協働研究事業の実施

参加校 8 校による協働研究事業は、COC+事業の趣旨のもと、各校の学部構成や教育方針、これまでの地域貢献活動の経験を踏まえながら、可能な範囲で連携しながら事業を進めている。

内容としては、観光に関連する調査・企画については広島大学、広島経済大学の 2 校。地域に関する講座の開催が広島工業大学の 1 校。アートプロジェクトや地域活性化に関する活動が尾道市立大学、広島国際大学、広島修道大学、安田女子大学、広島商船高等専門学校の 5 校。（詳細は資料一3に掲載）

校名	事業名(テーマ)	実施内容	成果
広島大学	コンテンツツーリズムを活用した地域活性化～呉市を中心に～	呉市は、映画、大和ミュージアム、漫画など多くのコンテンツを有し、観光資源として活用するため学生がモニターツアーを体験・実施・企画する。行政と連携し一般向けツアーも企画。	地域調査の基礎を学び、アンケートの実施や分析、地域住民との信頼関係を形成する方法を学べた。学生 1 名が本事業をテーマに卒業論文を執筆。
尾道市立大学	アートプロジェクトの実施【広島市立大学と協働】	広島市立大学との協働により、尾道の歴史、現状、地域特性を学び、空き家をテーマに作品制作、展示を行う。	地域課題への理解、現場作業体験、環境改善、学生間交流、展示による成果発表、次年度の企画。
広島経済大学	学生による観光資源等の再発見と発信	①宮島の魅力の発信。②朝鮮通信使ゆかりの地(下蒲刈町)の観光促進。③瀬戸内海の戦跡地をマップにし伝える。	イベント・写真展等の開催、冊子、英語版パンフレット発行 日韓交流ツアーの企画実施 戦跡ガイドツアー(3か国語)実施
広島工業大学	広島工業大学地域環境宮島学習センター等における「宮島・土曜講座」【広島市立大学と連携】	地域保全まちづくり研究センターの研究成果を核に、広島工業大学教員と外部講師によるまちづくりに関連した公開講座を開講。	全7回の講座を開催。参加者 140人(内学生 32人、行政 21人)。学生の地域理解が深まり、地元自治体との連携を深めた。
広島国際大学	中山間地域と島しょ部間の交流による地域活性化プロジェクト	まちづくりを支える住民の高齢化に対して、健康づくりと地域間の交流をテーマに地域の活性化を図る。	安芸太田町、呉市豊島、東広島市黒瀬の3地区でサロンを開催。住民相談会や認知症予防、影絵制作。
広島修道大学	もとまちカフェ及び地域と連携した教育【広島市立大学と協働】	(もとまちカフェ)学生が基町住宅の魅力を外部に発信「歌声喫茶」「ひかりのカフェ」実施。(地域)教育廿日市市、北広島町で課題や資源に着目した学習、地域活動。	もとまちカフェを広島市立大学の学生と共同で企画実施。 廿日市市飯山、北広島町大朝で学生 47 人が地域貢献活動。
安田女子大学	「グローバルキッチンプロジェクト」「筏津プロジェクト」への参画【広島市立大学と協働】	広島市基町で食関連イベント・グローバルキッチンを実施、住民交流、健康促進の場をつくる。北広島町筏津で調理や栄養に関するレクチャー、地域行事への参加と交流。	グローバルキッチンで学生 14 人が減塩健康食を提供、住民 25 人。 筏津クッキングで学生 12 人が食欲増進食提供、栄養指導、住民 80 人。学びを地域に還元する体験。
広島商船高等専門学校	高齢者健康調査【広島大学と連携】	離島の高齢化に対応するため、大崎上島町住民の健康調査、保健指導等を実施する。	行政、大学、住民との協力体制を構築した。学生の地域課題、専門性を生かした地域課題探求、交流など地域貢献の意識が向上。



広島大学



尾道市立大学



広島経済大学



広島工業大学



広島国際大学



広島修道大学



安田女子大学



広島商船高等専門学校

(10) 大学連携による学生の観光研究・活動発表会

① 概要

COC+の協働教育研究事業として、学生の観光に関する学習・研究意欲を高め、地域を志向するマインドの醸成を図るため、広島市立大学が呼びかけを行い、参加6大学と比治山大学(協力校)が合同で、平成 29 年度から実施している。

観光に関連する学生の研究や活動に関する広島地域での大学間交流事業としてユニークな取り組みとして、前年度と同様に、研究・活動発表に加え、現地学習、広島食資源勉強会兼交流会等を組み合わせたプログラムとなっている。活発な質疑応答がなされたことにより、学生からの事業評価は前年度よりも高まっており、他大学の発表に触れ意見交換する刺激的な場となっている。

開催日時：平成 30 年 12 月 8 日(土)午後～9 日(日)午前(1泊2日)

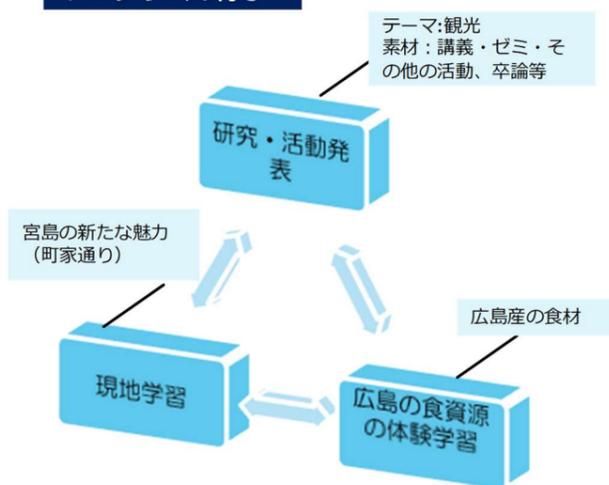
会場：広島経済大学宮島セミナーハウス成風館(廿日市市宮島町)

参加者：学生 64 人、教員等 21 人 計 85 人(うち宿泊者は 32 人)

実施体制



プログラムの骨子



発表テーマと参加大学 (12テーマ:発表順)

① 宮島の魅力を多角的に発信するための取り組み～広島経済大学興動館教育・宮島の魅力を発信したいプロジェクト	広島経済大学
② 宮島・町家通り活性化大作戦	広島工業大学
③ 宮島の新お土産提案展示「これも!?宮島展」	広島市立大学
④ 宮島における歩行者交通量の平準化方策に関する検討	広島工業大学
⑤ 大学生による広島市内戦跡ガイド	広島経済大学
⑥ きんさい呉線～市内だけで満足しちゃいけないじゃろ!～	安田女子大学
⑦ 『扇ノ山を源とする殿ダムと浦富海岸、「旬」体験ツアー～人と水とが創造する、遊・食・景 その見聞はきっと永遠(とは)になる!～』の企画考案	比治山大学
⑧ 広島のええとこルートマップ!!!	広島修道大学
⑨ 離島の「非日常性」の発見と活用	広島市立大学
⑩ 大学生まちづくりコンテスト 2018 へ向けての取り組みと成果報告	比治山大学
⑪ サステイナブルツーリズム	安田女子大学
⑫ 「負の記憶に向き合うために観光ができること～広島・福島・呉から考える～」	広島大学

参加7大学

広島大学

広島経済大学

広島工業大学

広島修道大学

安田女子大学

比治山大学

広島市立大学



研究・活動発表会での活発な質疑応答



② プログラム

8日(土) 13:00~	開会挨拶	広島市立大学副学長 若林真一
13:10~17:10	学生の観光研究・活動発表	12テーマ(7大学)
17:30~19:30	広島の食資源勉強会兼交流会	國本善平(広島市立大学)
9日(日) 9:00~10:20	現地講義テーマ:町家通り ①宮島の景観保全~これまでとこれから ②宮島の「町家通り」の町家と町並みの空間特性、及びその活用・観光資源化	佐藤俊雄(広島市立大学) 森保洋之(広島工業大学名誉教授)
10:30~11:50	現地視察:町家通り 町歩き,町家案内2施設	森保洋之(広島工業大学名誉教授) 伊藤雅(広島工業大学) 國本善平(広島市立大学)

③ 評価

参加学生は、1年生から4年生までと幅広いが、3年生が主体であり、卒業論文執筆等に先立っての実践・体験型教育の場となった。

■プログラムの評価

- ・研究・活動発表においては、1発表当りの質問数が2.7件と前年度(1.8件)に比べ大きく増加。活発な質疑応答がなされたことで、学生、教員から高く評価された。
- ・その他の現地講義、現地視察、広島の食資源勉強会兼交流会においても、学生・教員ともに高評価で、総合評価も学生・教員ともに高評価であった。

■事業の効果(学生のみ回答)

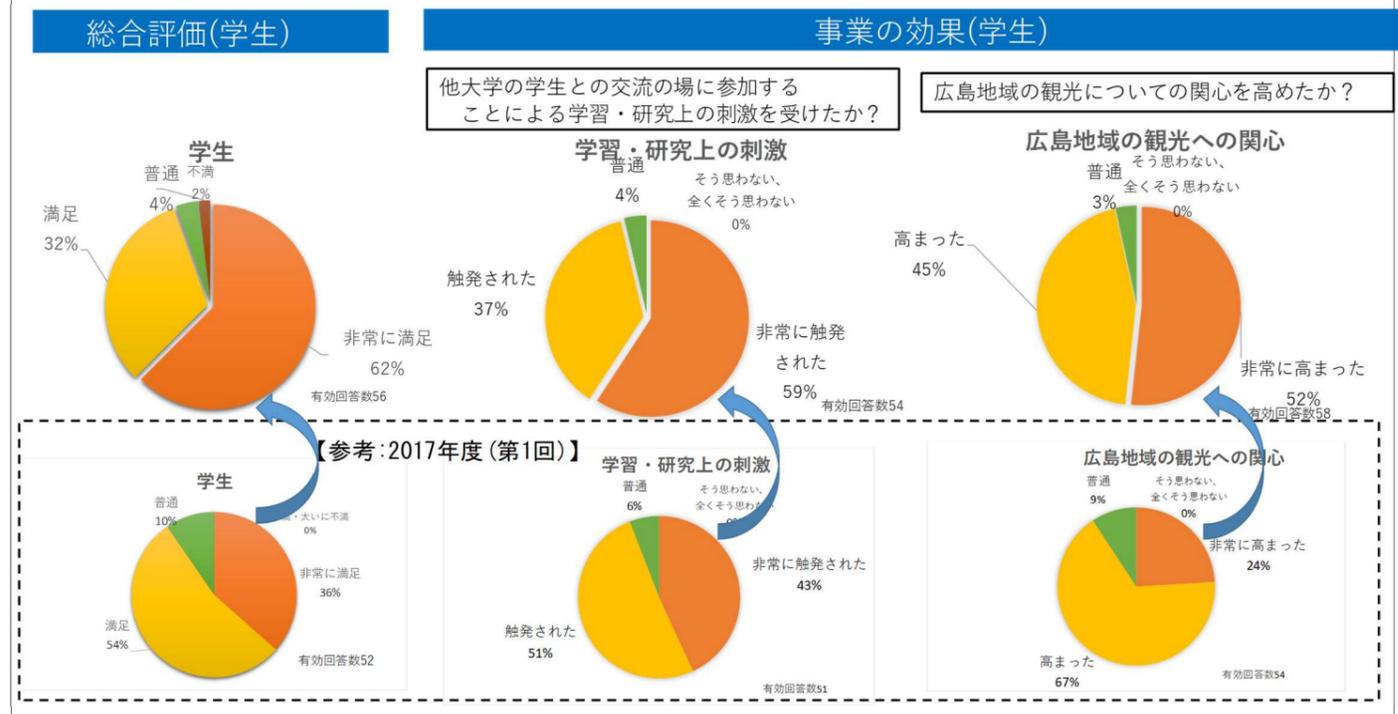
- ・96%の学生が「他大学の学生との交流の場に参加することによる学習・研究上の刺激を受けた」と回答、また97%の学生が「広島地域の観光についての関心を高めた」と回答しており、学習・研究面での効果が確認できる。

<自由意見>(抜粋)

「…研究内容だけでなく、プレゼンの仕方や質問の仕方、スライドの工夫なども学ぶことがあったので、このことは大学生生活で生かしつつげたい。」(2年生)
「卒論提出まであと1ヶ月ほどですが、今回の経験のおかげでがんばれそうです。」(4年生)



現地講義(広島市立大学 佐藤) 町家通り町歩き解説(元広島工業大学 森保) 佐々邸(広島工業大学 伊藤)
因幡邸(広島市立大学サテライトハウス宮島) 広島の食資源勉強会兼交流会(広島市立大学 國本) 広島の食資源勉強会兼交流会での発表活動に関する学生からのコメント



(11) COC+特色研究等の実施

■ 特定研究・社会連携プロジェクト

本学の学内競争的研究資金として、平成 28 年度から新たに、特定研究にCOC+研究費を設け、社会連携プロジェクトにCOC+関連事業経費を追加した。

平成 30 年度は、次の 8 件の研究テーマを採択し、実施した。

区分	研究テーマ・内容	代表教員
特色研究費 COC+研究費	季節イベントに関するカブログの自動検出	情報科学部 難波英嗣 准教授
	基町高層アパートにおけるメタボリズム建築とコミュニティの文化社会学的検証	芸術学部 石松紀子 准教授
社会連携 プロジェクト費 COC+関連	しまなみ観光サイクリストの行動情報収集プロジェクト (連携:しまなみジャパン)	社会連携センター 植松敏美 特任助教
	尾道市立大学と連携したアーティストによる空き家再生事業を軸に、観光振興による地域創生に向けた人材育成事業 (連携:尾道市立大学、尾道市滞在アーティストほか)	芸術学部 古堅太郎 講師
	柳井プロジェクト(アートプロジェクト) (連携:柳井市商工観光課)	芸術学部 藤江竜太郎 講師
	地域資源の撮影を通じた写真映像コンテンツ編集・発信能力の開発 (連携:広島市中区役所)	芸術学部 中村圭 講師
	瀬戸内の魅力発信プロジェクト・バーチャルリアリティー編 (連携:せとうちDMO, 広島県水産海洋技術センターほか)	国際学部 山口光明 教授
広島の文化財(美術)を学ぶ教育プロジェクトー三原市・佛通寺所蔵「雲谷等顔筆 襖絵」を教材として (連携:三原市教育委員会、同文化財協会ほか)	国際学部 城市真理子 准教授	



尾道市での観光サイクリストの行動調査



基町住宅で日常の歴史を聞き取り記録する

■ 市大生チャレンジ事業

学生が自ら選択した地域課題やテーマに基づき実施する社会貢献活動を支援するための制度である「市大生チャレンジ事業」を平成 28 年度から開始し、平成 30 年度は次の 3 件をCOC+に関連する地域活動として採択し、実施した。

区分	活動テーマ	実施内容	参加学生
市大生 チャレンジ事業	横川プロジェクト	横川に住む人々や活気ある風景、建築物など、学生の視点から横川の魅力を再発見する	25人
	広島ピースキャンプ 2018	8月6日に来広する観光客への学内でのキャンプ提供、文化体験の運営などを行う	2人
	写真作品とカメラのワークショップを通じた基町アパートの地域活性化	基町の今の写真を住民に観覧してもらうとともに、外部の人にも基町の魅力を伝えコミュニティの活性化を図る	10人



横川の魅力を再発見し冊子に編集



広島ピースキャンプ 2018 を運営



基町の今を写真で伝える

(12) サテライト講座の実施 (高校生の地域内進学への促進)

COC+事業の目的は、地域が必要とする人材を養成するための教育カリキュラム等を実施することにより、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積(地元就職率の向上)を図ることにある。こうした中、参加自治体の状況として、若い世代の人口流出を防ぎ、地元への定着をいかに図るかが切実な課題となっている。

その対策のひとつとして、高校生の地元大学への関心を高めるための事業を行い、地域内への進学の道を示すことが、ひいては地域内での就職につながるものとして、期待されている。

こうした背景や要請を受けて、COC+事業協働地域在住の高校生の地域内進学を促進することを目的として、サテライト講座を実施することとし、要請のあった柳井市において、平成29年度に引き続いて開講した。

■実施概要

- ① 主催 柳井市、柳井市教育委員会、広島市立大学
- ② 対象 柳井市を中心に、周防大島町、上関町、田布施町、平生町の地域内の高校に通う高校生
- ③ 会場 柳井市文化福祉会館
- ④ 受講者 50名前後とし、講座の内容により少人数での開講も想定
- ⑤ 回数等 年3回、各回90分
- ⑥ 内容 高校生を対象とした講座の実施
COC+参加大学を中心に広島地域の大学の説明と進学へのPR

	第1回(8月26日(日))	第2回(9月17日(祝))	第3回(11月18日(日))
担当	芸術学部 鯉澤教授	情報科学部 満上准教授	国際学部 目黒講師
テーマ	私のアートとアートディレクション、そのコンセプト	歩き方からわかること 個人認証から心身状態の推定まで	アフリカ地域研究入門 フィールドワークによりマサイの暮らしを考える
参加者数	20人(高校生15、教員1、一般4)	19人(高校生3、保護者5、一般11)	14人(高校生5、保護者2、一般7)
参加高校	柳井、柳井商工、熊毛南、大島商船、光	高水、田布施農工、大島商船	柳井学園、野田学園、高水

⑦ アンケート結果

講座の内容について87%が「とても良かった」「良かった」と回答し、大学選択の参考になったかについては72%が「参考になった」と回答した。



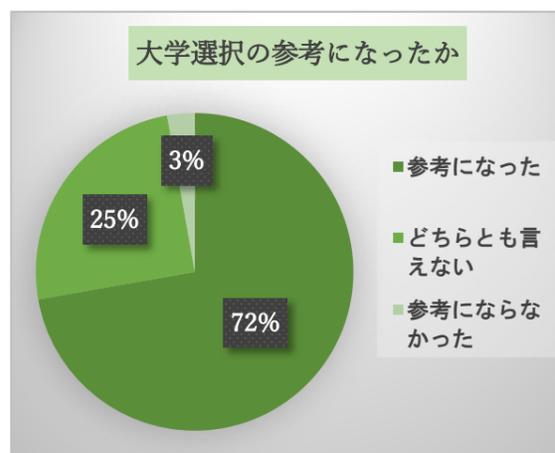
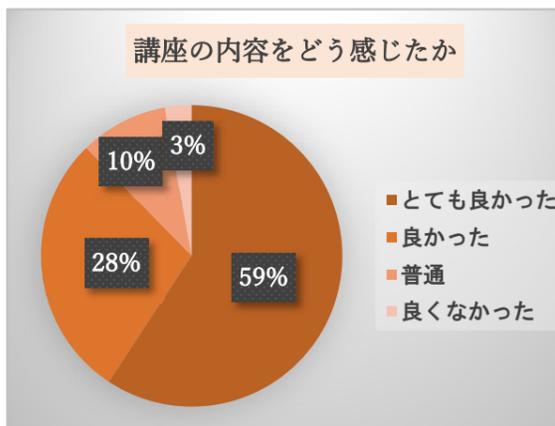
アートディレクションとは何か(鯉澤教授)



歩き方から分かる歩容認証(満上准教授)



マサイのゲストも参加、アフリカ地域研究入門(目黒講師)



4 インターンシップの強化

(1) インターンシップの参加状況

インターンシップは、キャリア教育の中で重要な役割を担っている。その一方で実態としてキャリア形成を図る教育プログラムでありながら、就職活動・求職活動の一環であるとみられる傾向がある。

こうしたインターンシップに対する考え方はともかく、COC+では、インターンシップは学生を地元企業に結び付ける格好の機会であると認識し、地元企業の実施するインターンシップへの学生の参加を促進している。

■インターンシップの参加状況

平成 30 年度、本学キャリアセンターが仲介して実施するインターンシップ等について、学生を受け入れた企業数は、294 社・団体であり、このうち協働機関である 142 社・団体に対して、59 名が参加し、前年度の 58 名に比べ微増となった。なお、H30 年 7 月に発生した広島豪雨災害の復旧ボランティアに学生の参加を募り、夏季を中心にこの活動に力を入れたが、こうした状況下で前年度の水準を維持したことになる。

(2) インターンシップの強化に向けた平成 30 年度の実施状況

① COC+就職・インターンシップ担当ワーキングにおける検討

国公立大学は、学生の就職活動の面でこれまで比較的恵まれてきたことから、私立大学と比べ、大学による学生のキャリア形成・就職活動の支援が手薄い状況にある。

こうしたことを踏まえ、本学COC+では、学生に地元企業への興味・関心を持ってもらうことによって、地元企業への就職に結びつくことを期待して、学生のキャリア形成の支援の充実を図りながら、地元企業へのインターンシップの参加者の増加を図るための取り組みを進めている。

平成 30 年度は、どのようにして地元企業が実施するインターンシップに対して学生の参加を促すかという視点から、改めて地元企業と学生が接する機会の充実等についての方策を検討した。

■広島市有給長期インターンシップの参加状況

広島市が実施する市内大学の学生を対象に実施する有給長期インターンシップに、平成 30 年度は、本学から1名が参加した。(このインターンシップには、広島県内 15 大学から計 30 名が参加)

■その他のインターンシップの参加状況

上記以外に、ドミニカ共和国カープアカデミーが実施するインターンシップに2名が参加した。

受入れ	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
企業等インターンシップ 受け入れ企業数	84社・団体 (58)	103社・団体 (70)	304社・団体 (163)	294社・団体 (142)

学生の参加	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
企業等インターンシップ	42名 (39)	63名 (47)	77名 (55)	60名 (58)
広島市有給長期インターンシップ	5名 (5)	3名 (3)	3名 (3)	1名 (1)
広島県インターンシップ促進協議会	2名 (0)	1名 (0)	0名 (0)	0名 (0)
その他のインターンシップ	6名 (0)	4名 (0)	4名 (0)	2名 (0)
合計	55名 (44)	71名 (50)	84名 (58)	63名 (59)

(注)()書きは、COC+協働機関におけるインターンシップ参加者数で内数

平成 27 年度、28 年度については、リクルート(リクナビ)やディスコ(キャリアス)等が情報提供し、学生が本学キャリアセンターの仲介を得ることなく、企業に直接申し込んで実施するインターンシップの参加者数を含んでいない。平成 29 年度からは、学生からの報告制度を新たに設け、報告のあったものを集計・掲載している。

② キャリア教育の見直し

本学では、教育課程全体にキャリア教育の視点を取り入れるとともに、正課外の学修活動を含めて、学生一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育を推進している。

平成30年度は、既存のキャリア形成支援科目や正課外学修活動の内容と履修年次を見直すとともに、専門教育科目におけるキャリア形成の視点を整理するなどして、学生が教職員の支援を受けながら、自らのキャリア形成に取り組むことができる体制を構築した。

■キャリア形成支援科目(全学共通系)の見直し

	現行	見直し後
科目名	キャリアデザイン	キャリアデザインⅠ・Ⅱ
年次・学期	1・2年 後期	1・2年 Ⅰ前期・Ⅱ後期
内容	ライフプランとして友情、恋愛、結婚、仕事・職業について一緒に考える。	職業人生やキャリアについて、ⅠⅡにより段階的に構想し、実現をサポート。 Ⅰ 卒業後の将来に向け4年間の学習の目標を設定する。 Ⅱ 将来の働き方を設計する。

	現行	見直し後
科目名	キャリアサポートベーシック	キャリアサポートベーシックA・B
年次・学期	3年 通期(自由科目)	2年、または3年 A前期・B後期(選択科目)
内容	卒業後の進路を適切に選択するための自己分析、企業研究、職業適性の手法を学び、コミュニケーション能力を身につける。	A 外部専門講師による自己分析、企業研究、職業適性診断の講義演習。OBOGの講話。夏季休業中のインターンシップ参加を促す。 B 外部専門講師による企業情報収集のポイント、履歴書・エントリーシートの作成、面接対策など就職活動への実践的な学修を行う。

以上のように、低学年時からの、将来の職業選択についての構想や学修、インターンシップ、就職活動への実践的な指導に力点を置いた見直しとなっている。

■キャリアデザインシートの導入

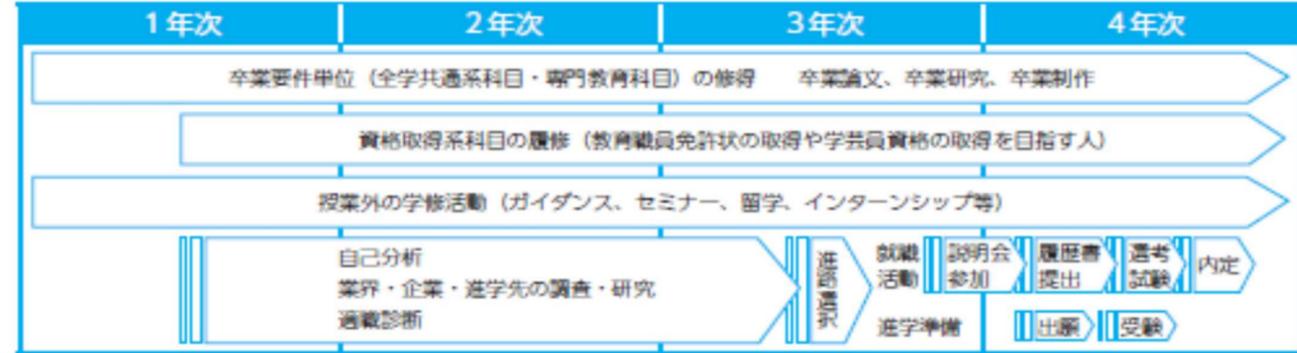
全学生に1年次からキャリア形成について意識する機会を設定する。新たな取り組みとして、大学生活の目標設定、振り返り等を定期的に行うキャリアデザインシートを導入した。学生ハンドブックに記載し、各自が記入できるようにした。

■インターンシップ

これまで3年次を中心に行っていたインターンシップについて、キャリア形成支援科目の見直しによって、低学年での参加を推奨、指導する体制に見直すとともに、専門教育科目での各学部のインターンシップ科目の履修促進など、充実強化を図っている。

キャリア形成・進路決定の流れと支援の概要

■キャリア形成と進路決定の流れ



キャリア形成を総合的に支援

■キャリアデザインシート

1年次	2年次	3年次	4年次
目標設定	振り返り	目標設定	振り返り

■キャリア形成支援科目の履修例

1年次	2年次	3年次	4年次
【全学共通系科目】 後期 情報と企業 広島の産業と技術 第1ターム キャリアデザインⅠ 第4ターム キャリアデザインⅡ	前期 キャリアサポートベーシックA	後期 キャリアサポートベーシックB	
【専門科目】 ※各学部でキャリア形成の視点を取り入れた専門教育科目を実施します。 (例) 国際学部：企業インターンシップ(2～4年次) 学校インターンシップ(2～4年次) 学部派遣海外インターンシップ(2～4年次) 公的機関インターンシップ(2～4年次) 情報科学部：インターンシップ 芸術学部：造形応用研究(2～4年次)			

■授業科目以外の学修活動

1年次～3年次					
第1ターム	第2ターム	夏季休業	第3ターム	第4ターム	春季休業
○公務員試験対策説明会 ○インターンシップ説明会	○インターンシップ事前研修 ○グループディスカッション実践演習	○公務員試験対策セミナー ○インターンシップ	○学部別進路説明会 ○筆記試験対策セミナー ○地元企業経営者パネル討論会	○教員採用試験説明会 ○グループディスカッション実践演習 ○合同企業説明会の“歩き方” ○模擬集団面接実習	○学内合同企業説明会 ○OBOG交流会 ○インターンシップ

※多くの学修活動は学年を問わず参加できます。

インターンシップは、学部別に指定される要件を満たすことで、授業科目の単位として認定されます(芸術学部を除く)。実施時期や内容は変更することがあります。

③ COC+参加機関とのインターンシップ充実に向けた検討と実施

地元企業が実施するインターンシップの充実を促進するため、参加機関である中国経済連合会及びマツダ(株)が主体となって実施するインターンシップの検討会に本学も参加し、協議・検討を進め、新たな企業インターンシップを開始している。

■中国経済連合会(人材育成専門部会) 新たな企業訪問事業

人材育成部会における平成 28 年度の検討を踏まえ、29 年度から、大学低学年の学生を対象に大学生の初期キャリア形成を支援する事業として、地域の企業と連携して「働く魅力を知る」企業訪問半日コースを実施している。

平成 30 年度は、COC+参加校を含む県内大学の学生の一層の参加促進を図るため、中国経済連合会と本学COC+との協働事業として実施した。また、新たに学生を指導助言する側の教職員の地元企業への理解を促進するため、教職員向けの企業訪問半日コースも開設した。

平成 30 年度は、教職員と学生を合わせて、51 名が参加した。なお、夏休みを利用して 7 月に広島県内を襲った豪雨災害の影響等があり、事前に参加を申し込んだ学生の多くが実際の参加に至らなかった。

■マツダ株式会社 インターンシップ合同意見交換会

マツダ(株)においては、イノベティブ人材育成の一環としてインターンシップの充実を図るとともに、各大学におけるキャリア教育の強化を目指し、地元の受け入れ対象大学等と定期的に合同意見交換会を開催している。(マツダ(株)の主催により、広島大学、県立広島大学、広島市立大学、広島工業大学、安田女子大学、呉工業高等専門学校が参加)

マツダ(株)のインターンシップは、低学年の学生から博士課程の学生までをカバーし、力量に応じた階層的なプログラムを提供している。

平成 30 年度は、合同意見交換会参加大学から、社会人入門型 47 名、就業体験型 37 名、共同研究連動型 14 名、テーマ提案型 3 名、計 103 名が参加した。なお、社会人入門型における低学年生(学部 2 年生以下)が 22 名となり、昨年と比べて倍増した。

(一社)中国経済連合会
(2018 年度)

未来のキミをイメージしてみませんか

**1~2 年生
大歓迎**

**働く魅力を知る！
企業訪問半日コース**

地元企業の経営幹部・社員にインタビュー

**教職員向け「企業訪問半日コース」
開催のご案内**

地元企業を訪問し、経営幹部・社員と懇談します

地域の企業の魅力とは？
 地域で働く魅力とは？
 企業が求める人材像とは？
 若手社員が大学に求めることは？

地域で働く人の想いと働く現場に触れ、大学と地域の関わりについて考えてみませんか

